



コロナをよそに クロマツは伸びる 青空に向かい

3月下旬、暖かくなるとともに、現場が動き始め活気づく予定でしたが、4月7日の緊急事態宣言の発出により、他県への移動が制限されたため、東京のスタッフは名取市への出張を控え、全国から集まるボランティア活動は中止し、静かな春を過ごしました。コロナ禍のボランティア受入れ状況、クロマツや動植物の様子、名取市海岸林再生の会や森林組合の作業について報告します。



Photo by MUSE

「今年は全体的に伸びがいい」

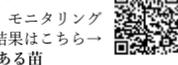
6月11日、久しぶりに現場を訪れたオイスカ緑化技術参事の清藤先生から、嬉しい第一報がありました。

2014年植栽エリアの中には頂芽を1m近く伸ばしている個体もあり、成長が悪く心配していた2016年植栽エリアも個体差はありますが、平均すると30cm程の伸びが見られます。「排水がうまくいっている証拠だろう」と清藤先生が言うように、降雨の80%を盛土上から排水することを理想として、排水環境が悪いエリアに集中して排水溝を整えてきたことが功を奏しているようです。去年はボランティアの手で、最多湿地帯の3.81haに幅1m×深さ70cmの排水溝の総延長1,150mを修復・新設しました。

地道できつい作業ですが、確実に実を結んでいます。

『モニタリング調査結果報告(2019年度)』によると、「植栽後5年経過した2014年植栽地では、個体の生長は、精英樹(※1)苗・抵抗性苗(※2)または、露地苗・コンテナ苗かの育苗条件ではなく、生育立地(土壌条件)に起因していることが明らかになっている。生育の悪い場所の土は、粘土分が多く締まって固くなる傾向にある。また、多湿で水が溜まりやすい土壌は、通気性が悪く根が衰弱し養水分の吸収が悪く、生長に悪影響を及ぼしている」と考察しています。

※1 地域の人工造成地において最も成長が優れた木 ※2 松くい虫被害を発生させるマツノザイセンチュウに抵抗性がある苗



頂芽を伝い、クロマツより高く伸びようとしているクズ。1日30cm伸びるともいわれる。人が足を踏み入れない数カ月間、刈り取られることなく伸び伸びしていたのだろう。(右上)越冬地のオーストラリアやアフリカの沿岸から夏鳥として繁殖のために渡ってくるコアジサシ。植栽地近くでひっそり営巣

完成したばかりの盛土に7850本植栽

宮城県では、植栽開始5月12日の時点で新たな感染者が2週間発生していなかったこと、植栽現場や育苗場は密状態ではないことから、予定どおり地元森林組合作業員の手で植栽が行われました。植栽スピードに合わせ、再生の会が苗木を出荷し、6日間で完了。今年の苗は濃緑色で出来ばえ上々です。

(上)一見、柔らかく植えやすそうだが、所どころ固く締まっているため、土質に応じた穴の掘り方、植え方が求められた(下)最盛期には16万本を育苗していたが、今秋で植栽を終える今、育苗場の規模は小さくなり3.5万本となった。「あれから10歳も年を取っちゃったんだな」と再生の会のメンバーは感慨深そう



ムシも元気でした！
(上)場所によっては、約半年間、人が踏み入れなかった場所があり、鬼の居ぬ間の洗濯とばかりに約8cmに成長したマツカレハの幼虫を100匹以上発見(下)2019年植栽のクロマツに集中して、先端が枯れているものを多数発見。枯れた部分のみを切り取り対処。これは、マツツマアカシンクイの作業



←茶色と緑の境界部分を切ると、中にこの幼虫が！やがて蛾となる

6月20日 ボランティア活動再開

感染防止対策を講じた上で、宮城県民に参加を限定、人数を制限して活動を再開しました。初参加の高校・大学生、ベテランボランティアさん、スタッフのみなが外で作業できる喜びを感じていました。この日はゴミ拾い、クズの刈り取りを行いました。

6月20、27、7月4日にボランティア活動を実施しましたが、新型コロナウイルス感染者数増加を受け、7月19日以降から8月上旬までの活動を中止しました。以降は状況に応じて判断することになっています。(7月21日現在)

青空の下は気持ちいいね！



四方八方に自由に伸び、絡みつき、クロマツにとって非常に迷惑な存在を取り除いてくれる救世主が登場。70kgある防風柵を移動させ、クズの根元を探し薬剤を塗布。クロマツを思い黙々と作業してくれるボランティアの存在がありがたい



感染対策をとしてのボランティア活動再開について、2012年から継続して取材いただいている宮城テレビから取材を受け、6月22日「OH!パルデス」で約12分間放送された



自由に往来できる閑上地区付近の不法投棄が目立つ。心ない行為に心が痛む

本になります！ 11月中旬発売予定 プロジェクトへの寄附受付3月末まで



オイスカ内部の視点ではなく外からの視点で、プロジェクトに関わる多くの方への取材をもとに、元日経新聞論説委員の小林省太さんが執筆を重ねる「よみがえれ！ 海岸林」。今秋、書籍発行が決定！

誌面には掲載できず割愛した内容を盛り込み、読み応え十分の本になります。

詳しくは、ホームページ、オイスカ月刊誌などに掲載します。

※書籍タイトルは変更の予定です

おかげさまで2,083(2020年3月末現在)の企業・団体、個人のみならず、これまで7億9534万2654円のご寄附をいただき、順調にプロジェクトを実施してきました。2021年度以降の第2次10ヵ年計画の活動資金として、これまで2.8億円を積み立てており、今後は積立金を取り崩しながら、下草刈り、間伐、除伐などの作業にあたっていきます。

寄附の受付は2021年3月31日で終了しますが、「第2次10ヵ年計画(2021-2030)」として、今後も活動は続きます。

「大阪マラソン2020」残念ですが中止です

11月29日に予定されていた大阪マラソンは、新型コロナウイルス感染拡大のため中止が決定しましたが、今年選ばれたチャリティ寄付先団体は、来年に持ち越しとなりました！2021年大会まで時間はたっぷりあるので、ゆっくり悩んで、ゆっくり練習してください。来年、みなさんに会えるのを楽しみにしています！(浅野)

つぶやき...現場でボランティアさんに会うのが何よりの楽しみなのですが、今年は残念でなりません(浅) 例年、6月頃からよきよき伸びるツルマメ草。今年の出が遅いようです。ボランティアさんに頼れない今、いっそのこと来年まで芽を出さず土中で寝ていてくれたらいいのに(鈴)

	これまでの実績				
	植栽本数	植栽面積	ボランティア数	講演会開催数・聴講者数	寄附金額(民間助成金含)
2011~13年度	—	—	262人	75回 11,195人	240,478,577円
2014年度	80,182本	15.67ha	1,365人	30回 4,692人	100,263,158円
2015年度	55,084本	10.06ha	1,691人	30回 4,996人	101,024,711円
2016年度	56,037本	11.00ha	1,800人	26回 3,893人	89,502,022円
2017年度	71,945本	13.66ha	2,096人	30回 5,911人	84,045,449円
2018年度	81,600本	16.32ha	2,273人	22回 4,178人	89,877,990円
2019年度	6,000本	2.00ha	1,892人	24回 3,347人	76,392,139円
2020年度(7/20現在)	7,850本	1.57ha	62人	0回 0人	13,758,608円
合計	358,698本	70.28ha	11,441人	237回 38,212人	795,342,654円